

わが輩は座席である

わが輩は、座席である。座席にもいろいろあるが、わが輩は、鉄道の一車輛に住み家とする。元々、国鉄に籍を置いたが、寄る年波には勝てず、流れ流れて、今は地方の私鉄に籍を移し、老骨にむち打って日々の務めに精一ぱい努めている。

昭和7年5月、盛岡のさる工場で呱呱の声をあげ、東海道線が社会への第一歩。オハ322652というのが、わが家につけられた符丁で、12A Cがわが輩の名である。あれからざっと48年、……思えばわが輩も変われば変わったが、世の中もなにかと変わったね。無理もない。わが輩の顧客である人間様の数だって、昭和生れが8割以上、戦後生れだけでも半数を越えたというじゃない。

商売柄、客との出会いも老若男女、そして服装とさまざまなら、地域、季節、時刻、職業、集団、第三の客スリなどが織りなす模様は悲喜交々、見聞した情景も千差万別である。

それならミニスカートの流行時は、商売妙利じゃなかったかといわれるかも知れないが、世の中には産婦人科もあれば、風呂屋の番台もある。ことが商売ともなると話は別というものだ。いや、けっして悪い気持ちはしないがね。

今朝、わが輩のところにご夫婦と見受ける二人づれが腰をおろしたが、向い合わせの客との話のやりとりでは、察するところ退職者で、務め先の特別の計らいで希望地への旅行だとか。奥さんのどことなく嬉しそうな——いきいきした顔、はずんだ声が印象的だった。

そうそう。こんなこと言ってたな。「明治と昭和の谷間—大正生れのわれわれは、苦労という字を背負いつづけての半生だったなあ。学校は小学校が普通だっぺえ。豆腐、油揚げを口にするのは、何か特別の事があるときだけだった。気がついたら兵隊で、それでも九死に一生を得て復員。食うための方便で土方、カツギ屋、そしてやっと就職。それから結婚、出産、年寄りの世話、子供の進学だ。それも高校を通り越して大学だっぺえ。月々の仕送りだってちとばかりじゃねえ。就職しても月給入れるわけじゃなし、車も買わされて、結婚してのあげくの果がマンションだど。意地やけっから、おいらもこれからせいぜいやりたいことやっぺえ。今日は、やりそこなった新婚旅行ちゅうわけだ。呵々」と。

世の中変わったといえば、人間の道徳一で悪かったらエチケット—も随分と落ちたものである。全くそら恐ろしくなるね。いつだったか——わが輩のお仕着せが古くなったので、新調したが、その衣替えをした矢先、いつも乗り合わせる高校生が、プカプカ煙草をまわしのみしながら、カッターで一張羅を切り取り、履いたままの靴でわが輩を踏んづけ、その切り取った布で靴磨きときた。こんな目に合

うと、一体これから先世の中どんなになるのだろうか、ひとごと乍ら心が痛む。

こういった人心の荒廃を、憲法から始まって、教育勅語、宗教、経済、政治、組合、はてはインスタントラーメン、バッテリー式まで持ち出して論議に及んだご年配の客がいたが、他のせいにしたって決して良くなるものじゃない筈だよ。すべての基礎となる家庭からして、近頃は夫婦共稼ぎだろ。しつても教育も、どだい足元に無理があるんじゃないの。

最近こんなこともあった。学校帰りの小学生と覚しき二人連れ。その日習ったのか理科の話しかはずんで、一人が、「鏡に顔を写すと、左と右が入れ替るよな。左と右が入れ替るのに、どうして上と下が入れ替らないんだ。」「……？」

この話、結論として明日先生に聞くことで意見の一致をみたようだが、ほほえましいじゃないの。人間の脳細胞の数は、サルの約四倍あるそうで、さすがとその着想に感心した。打ち明けた話、わが輩この問答には一瞬どきりとしたよ。当り前のこととして何の疑問もいだったことがなかったのに、改めて問われてみると何んにも解ってないで、あわてることって意外に多いんだな。

その隣りに終始ニコニコと子供達を見守っていた人品いやしからぬご仁、子供達が降りた後、相捧と話したところによると、このことは大変意味のあることらしいが、わが輩には残念乍らよく聞きとれなかった。

子供の話につられてか、それからしばし大人二人もいろいろな話題に興じていた。

学校で幾何を習ったとき、点というものが丸か三角か四角かということについては、先生も生徒も言わないのがエチケットになっているが、点だっているいろいろある。○○の観点からの点はまあいいとして、展覧会等での出品数の点は相当大きなものになるし、成績の得点などになるとどんなものかさっぱり解らなくなる、とか。直線だってそうだ。弾丸のように一直線に飛んで行くというのが、弾丸は決して直線には飛ばず、曲線を描く、とか。

数字上の言葉とアダ名の話など、二人は面白そうに言葉のやりとりをしていたが、トイレに行くことを黄金分割というくんだり、話も車も終点とはなったのである。

(黒沢 博)



